

Model 08

宮内庁
書陵部図書課図書寮文庫第二図書調査室
主任研究官



いけわだ ゆき
池和田 有紀
Yuki Ikewada

Profile

- 平成12年・宮内庁入庁(選考採用)
書陵部図書課図書調査室室員
古文書・古記録などの古典籍類の調査、翻刻、研究に関する業務
- 平成18年・～結婚
- 平成22年・～長女出産
産前・産後休暇、育児休業(1年)
- 平成23年・書陵部図書課図書寮文庫第二図書調査室主任研究官
古文書・古記録などの古典籍類の調査、翻刻、研究及び展示並びにウェブ公開・展示に関する業務
- ～夫育児休業(1年)
- 平成24年・～長男出産
産前・産後休暇、育児休業(3年)
- 平成27年・書陵部図書課図書寮文庫第二図書調査室主任研究官
古文書・古記録などの古典籍類の調査、翻刻、研究及び展示並びにウェブ公開・展示に関する業務
- ～現在

情熱と謙虚

研究職の仕事

宮内庁書陵部は、皇室伝来品を中心とする古文書や古典籍類、明治以降の公文書類、陵墓等から出土した考古資料などを収蔵・管理している部署で、その収蔵品は45万点以上に及びます。

私の所属する図書課図書調査室の仕事は、未整理の資料の内容を調査し明らかにすること、中でも特に歴史的価値の高いものに関しては翻刻出版することです。また、貴重な資料群の永久保存に努めながら、収蔵品のウェブ上での公開や、必要に応じて美術館・博物館への貸出業務などにも携わっています。いずれも我が国の歴史や文学、美術といった文化の根幹に関わる仕事で、とてもやりがいを感じています。

これまで私は大学・大学院において史学を専攻し、日本中世史を専門にしてきました。そもそも人文社会学系の学問とは、人間とは何か、を問うものであり、自らも様々な経験を通して社会と関わっていききたいと思い続けており、その一つに出産・育児がありました。もちろん、それが研究や仕事のスキルアップに直接寄与するわけではありませんが、人間の営みへの好奇心という点では、同じところに根ざしていると認識しています。

子供との生活

実際に育児に直面してみると、想像以上の大変さが待っていました。これまで自分の納得がいくまで思う存分に仕事や研究に専念していた生活から一転、子供を経済面・生活面で物質的に支えていなくてはならないと同時に、その子の精神的支柱としても生きなければならない。とても大袈裟なようですが、私自身これまでとは生きる意味が変化したと感じています。

多くの働く親が実感しているように、子育てに関しては、決して人任せにできない部分が少な

さを失わず

らずあります。掃除や洗濯など、家電機器を使いこなすことで、ある程度負担が軽減される家事がある一方、例えば食事は外食やお総菜ばかり、生活の面倒は保育園・学童・シッターサービスに一切お任せというわけにはいきません。大人のように割り切れない幼児にとって、親が直接関わってやらなければならない部分がたくさんあるのです。

しかし、自身の仕事のクオリティや、身体的・精神的な健康状態も一定レベルを維持せねばならず、仕事にせよ子供との生活にせよ、どこをどのように手厚くするのか、あるいは手を抜くとすればどの部分なのか、模索する日々は育児7年目となっても続いています。

今では長女も小学1年生となり、生活面ではだいぶ手がかからなくなってきましたが、義務教育という社会の入口において、相応の学力が身に付いているか、対人関係はどうかなど、新たな局面を迎えて、まだまだ「親の目配り」が必要だと感じています。

制度を活用して

職場の理解もあり、産前後休、育休、育児時間等、可能な限り制度を活用させていただいています。当初は利用することにためらいもありましたが、むしろそのような制度がなかった時代に苦労して仕事をしながら子育てをされてきた先輩職員の方々から、制度を上手に活用すべき!と背中を

押されました。有り難いことに、「昔は育休なんてなかった。今の人は恵まれている」などと言われたことは一度もありませんでした。

今後、就労しながらの出産・育児を検討している方に対し、自らの選択を一つのサンプルとして提示させていただくことが、そうした先輩方から頂いた数々の御配慮への恩返しだと思っています。



一日のタイムスケジュール例

- 5:00 起床、身支度、お弁当作り
- 6:30 朝食準備・長男(年少)登園準備
- 6:55 電車通学の長女(小1)を駅まで送り、一旦帰宅、朝食
- 7:40 出勤(長男の送りは夫)
- 8:30 始業
- 15:30 退庁(育児時間2時間)
- 16:30 長男迎え(幼稚園延長保育)
- 17:00 帰宅、長女学童保育より帰宅
子供の宿題・習い事のおさらいをチェック
- 18:00 夕食準備、入浴、夕食
- 20:00 読み聞かせ、寝かしつけ
- 21:00 掃除、洗濯、食器片付け、子供の持ち物チェックなど家事全般
- 23:00 就寝

女性職員のメッセージ

制度を利用する上で、周囲に迷惑を掛ける、自分のスキルやポジションが無くなるのではないかなど数えきれない不安がありますが、休業は一時と割り切って、それでも仕事に対する情熱だけは失わず、復帰後は、常に謙虚な姿勢でバリバリ楽しく職務に邁進しましょう。